

香川県教育委員会事務局  
保健体育課長 殿

学 校 名 東かがわ市立大内小学校  
学校長名 六 車 信 二

## 令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

### I 事業実施前の課題

- ・ 年度初めは、昨年度実施したボッチャを中心にペア学年で仲間づくりをする活動を計画していたが、感染症予防対策の点から、ペア学年や多数の児童で行う活動が難しくなった。

### II 具体的な取組み

#### 1 活動名(事前学習) : I' m POSSIBLE を活用した授業

- (1) 日 時 : 2020年 10月中旬
- (2) 対象者 : 第5学年 72名
- (3) 活動概要及び工夫点(総合的な学習の時間で実施)

車いすのパラリンピックスポーツに取り組む人を学校に迎えることを想定し、どんなことに気を付けるとよいかを考え、車いすを使用する人にとってのバリアを探し出し、解決の手立てを考えた。実際に車いす体験をすることで、「段差がある所は、1人で持ち上げられないから複数人の手助けが必要だ」、「体育館前の通路は、幅が狭い。車いすが通れないかもしれないから広い通路を通ればいい」、「手を洗う時は、『届きますか』と声をかけるとよい」など、障がいをもつ人に主眼をおいた解決策を考える姿がみられた。

#### (4) 活動の様子



【車いす体験の様子】

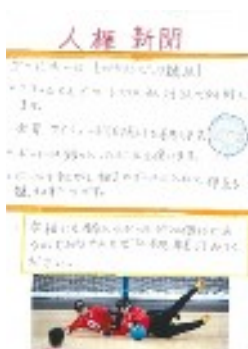
#### 2 活動名(事前学習) : パラリンピックスポーツを紹介しよう

- (1) 日 時 : 2020年 9月~12月
- (2) 対象者 : 人権委員会 (5・6年)
- (3) 活動概要及び工夫点(委員会活動で実施)

感染症予防のため、集会等でパラリンピックスポーツの紹介ができないことから、人権委員会がビデオを作成し、全校放送で放映した。また、学校にある

道具のできるパラリンピックスポーツを人権新聞で紹介した。仲間が作ったビデオや新聞を見て、より多くの児童がパラリンピックスポーツを身近に感じ、人権を意識した学校生活が送れるようにした。

#### (4) 活動の様子



【人権新聞】



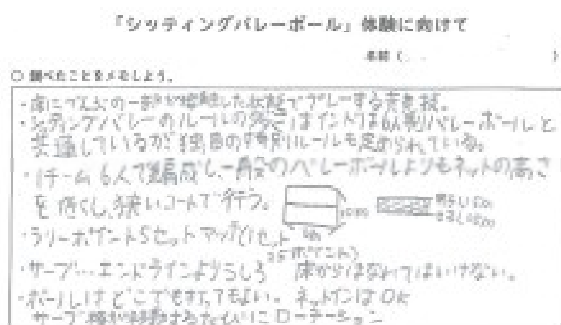
【ビデオ作成の様子】

### 3 活動名 (事前学習) : 「シッティングバレーボール」の体験に向けて

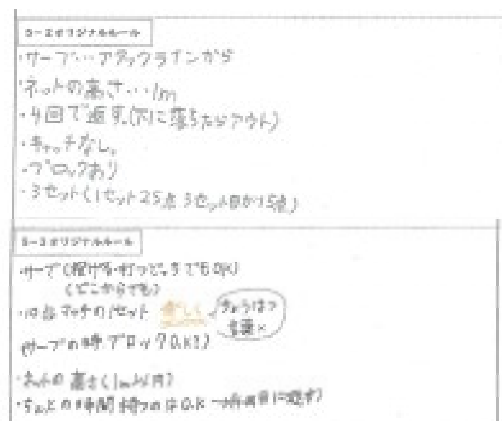
- (1) 日時 : 2021年 1月20日 (水) 13:50~14:35
- (2) 対象者 : 第5学年 72名
- (3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

「シッティングバレーボール」について調べ学習をした。調べたことを発表し、体験するときのルール作りを行った。ルール作りは、技術や力の差が出にくいこと、みんなが楽しめることをねらいとして、そのまま使うルールと各クラスオリジナルのルールを作り、競技に対してより親しみをもってもらえるようにした。

#### (4) 活動の様子



【本やインターネットで調べたルール】



【オリジナルのルール】

### 4 活動名 (中心学習) : 「シッティングバレーボール」を体験しよう

- (1) 日時 : 2021年 1月22日 (金) 13:50~14:35
- (2) 対象者 : 第5学年 72名
- (3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

各クラスがオリジナルのルールで「シッティングバレーボール」を体験した。自分たちが考えたルールで行ったので、どの児童も楽しむことができた。なかなかラリーが続かないチームでは、自然と声を掛け合ったり、優しいボールを投げたりするなど、仲間を思う姿がみられた。

#### (4) 活動の様子



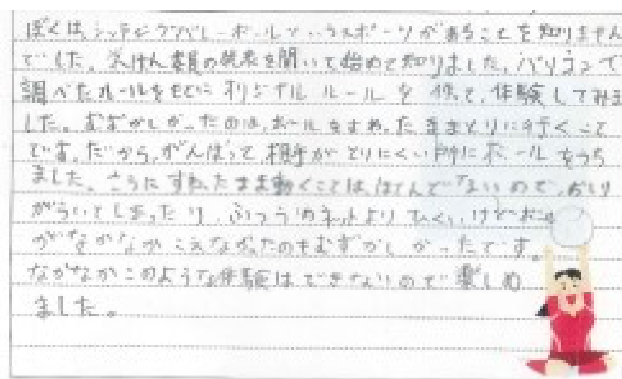
【シッティングバレーボール体験の様子】

### 5 活動名（事後学習）：「シッティングバレーボール」で体験したことを伝えよう

- (1) 日 時：2021年 1月22日（金）14：50～15：35
- (2) 対象者：第5学年 72名
- (3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

体験した感想をワークシートに書き、発表した。「おしりをつけたままの移動は難しいのでチームワークが大切になる」、「チームでボールをつないで返せた時は嬉しかった」、「腕や背中の筋力が必要だと感じた」、「パラリンピック選手はすごい」、「ルールを簡単にすると誰でもできる」というような感想をもつ児童が多かった。実際に体験したことで、1つのボールをつないでいく喜びやチームワークの大切さを実感したり、パラリンピックスポーツを身近に感じ興味を深めたりすることができた。

#### (4) 活動の様子



【児童の感想】

### Ⅲ 成果と課題

○活動前、パラリンピックスポーツという言葉は聞いたことがあっても、どんな競技があるのか知らなかった児童が、この活動を通してパラリンピックスポーツを身近に感じ、興味を深めることができた。今後も、パラリンピックスポーツのルールをアレンジし、児童が日常的に楽しむ遊びの1つとして定着させ、仲間づくりを継続していきたい。

○昨年度、新設された人権委員会は、この活動を中心に人権新聞を充実させ、校内の仲間づくりや心のバリアフリー推進のために活動ができた。

△パラリンピックスポーツに取り組む人を迎える計画を立てていたが、感染症予防対策のために実施できなかった。来年度は車いす体験で学んだことが生かせる場を計画するとともに、障がいの有無に関わらず、相手のことを考えた行動ができる児童を育てていきたい。